

乗雲

寺報

第107号

1985年4月創刊

R1.11.1 発行

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560

編集人
広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

道元禪師御一代記押絵

7

永平寺建立



道元さまの教えを受けていた波多野義重は、越前の国志比（現在の福井県永平寺町）の地を寄進、寛元二年の夏大禅道場「永平寺」を建立する。はじめは大仏寺と名付けられたが二年後、永平寺と改められた。この寺名のいわれは、仏教が始めて中国に伝わった「後漢の明帝永平十年」の暦号からとっている。以後深山幽谷のこの聖地で坐禅修行に励まれるとともに修行僧の指導にあたることになる。

道元禪師御一代記



恩送り

誰かから親切にされたら、その恩をその人にお返しする。これを「恩返し」という。「恩送り」はその人ではなく、他の誰かに優しさを伝えることです。そうすると恩がこの世を巡ることになる。そしてその恩は巡りめぐってまた返ってくるというもの。江戸時代頃までは普通に恩送りがあつたと言われている。

有名な作家の井上ひさしさんは、『井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室』という著書の中で、恩送りについて、「誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送る。その送られた人がさらに別の人に渡す。そうして、「恩」が世の中をぐるぐると回っていく。そういうものなのです」と書いておられます。自分も若い頃に一生忘れない、「恩送り」をしてもらった経験を載せています。

仏教用語に、「四恩」がある。

「父母の恩、衆生の恩、国王の恩、三宝の恩」のことで、父母の恩は、自分を産み育ててくれた両親への恩、衆生の恩は、生きていくすべての人や物から受ける恩、国王の恩は、我々の住む国土を安全に保ってくれる人々の恩、三宝の恩は、仏・法・僧の三つの宝による恩です。どれも大切なものです。ご恩報謝の真を捧げていかなければなりません。

父母の恩一つとっても沢山の数え切れないほどの恩をいただいてきました。しかしながら、両親とも亡くなり、「孝行したい時には親はなし、墓にふとは着せられず」の言葉どおり「恩返し」はかないません。これからできることは「恩送り」、受けた恩を一人でも多くの誰かに伝えて行くことです。私たちが読経の最後にお唱えする、普回向には、「願わくはこの功德を以て普く一切に及ぼし、我らと衆生と皆共に仏道を成ぜんことを」生きとし生けるすべての人々に功德が巡って行きますように。これが「恩送り」です。

令和二年 年回表

〔回忌〕

〔没年〕

一周忌	平成三十一年・令和元年
三回忌	平成三十年
七回忌	平成二十六年
十三回忌	平成二十年
十七回忌	平成十六年
二十三回忌	平成十年
二十七回忌	平成六年
三十三回忌	昭和六十三年
五十回忌	昭和四十六年
百回忌	大正十年

▼令和二年(2020)の年回表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正當各家には十一月中旬に通知しますのでご確認ください。

▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちようど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌、九十二年目が十三回忌となる。